◎ストライキを構え解雇を阻止

～一人のためにみんなが闘う①～

[ストライキを構えるまでの過程]

処分に対して何の闘いも構えないまま解雇されたら、動労千葉の団結はガタガタにされると思った。

⇨ 団結が総括軸

↓

But・・・

スト通告をするということは、全面戦争に持ち込むということ。

→支社長がそれだったらクビにしてしまえという声もでた

↓

解雇が強行されたとしても、全組合員が総決起すれば当該の組合員を守ることができる。

⇒闘えば勝てる！！

↓

「全組合員でストに入ろう」「これは本人の責任じゃない。一切の責任は当局にある」

◎動労千葉の団結

～一人のためにみんなが闘う②～

幕張事故のときも

「一人のためにみんなが闘うし

みんなの力になるんだったら一人でも闘う」

「一人はみんなのために

みんなはひとりのために」

⇒労働組合の原則

本当に貫いた闘いだった。

幕張構内にて。不当処分弾劾行動

「こんな事故を起こしただけで解雇されることになったら、もう運転士なんてやってられなくなる」

(p42 上　長田書記長)

↓

「だって事故はだれでも起こす可能性があるのだから。」(p42 下　君塚副委員長)

↓

最終的には「問題は管理体制の側にありました」と千葉支社に言わせた。こんなのは初めてだった。

(p43 下　田中委員長)

⇨ 闘ったから会社にここまで言わせた

「事故を起こした本人のミスだ」と言えばその通り。

それを会社が悪いんだと言い切って闘った。とんでもない組合だよ。

動労千葉にはそういう強さがある。　(p44 上　君塚副委員長)

「事故を起こした運転士のためにストライキをやらない組合なんて認められない」

(p135 上　関執行員)

闘っていると、きついこともあるけど、プラスの要素がいっぱい出てくる。闘いが次の闘いを生むし、団結を生む。その継続だよね。それが今の動労千葉のスタイルを作った。(p44 下　田中委員長)